

## 第1回「西山卯三記念叢書」出版助成（2023年度募集）選考結果概要

### ●採択された著者および原稿

- ・著者：岩元 真明（九州大学大学院芸術工学研究院）
- ・原稿タイトル（仮）：「ヴァン・モリヴァン：激動の近代カンボジアを生きた建築家」

（次点）

- ・著者：成 浩源（文化財保存計画協会）
- ・原稿タイトル（仮）：「歴史的街区における持続的更新手法の探究：  
北京旧城の歴史文化保護区と日本の伝統的建造物保存地区」

### ●応募数：12件

### ●総評

「西山卯三記念叢書」出版助成事業は、2023年度が初回で、2023年3月の応募期限までに、12件の応募があった。いずれも人と住まいに関わりの深い内容の出版提案であり、本助成事業の主旨にかなうものだった。5名の選考委員で、二段階の選考を実施した。一次選考では、選考委員全員が申請書および素材となる原稿を読み、1件につき2名が、テーマの独創性とその社会的意義または学術的価値を評価しコメントを記した。これら一次選考結果を集約共有した上で、4月22日に選考委員会を開催し、選考委員全員が集まって3時間にわたり話し合い、岩元真明さんの「ヴァン・モリヴァン：激動の近代カンボジアを生きた建築家」が採択された。

本事業は、2016年度以降刊行されてきた「人と住まい文庫」シリーズの主旨を継承しながらも、同シリーズが小冊子だったのに対してより本格的な書籍の出版を助成すべく創設された。若手の著者に応募を促した結果、1980年以降の生まれの著者が応募者の過半で、学位論文を素材とし学術的価値のあるものが4件あった。建築（デザイン、構法、歴史、まちづくり）分野からの応募がほとんどを占めるなか、異なる分野からの応募もあった。とくに二次選考の話し合いでは、一件一件、内容に即した異なる物差しでその独自性や意義を理解するように努めた。

初回でもあり、「西山文庫らしさ」について議論になったが、基本的に主旨を外れているものでなければ、内容を総合的に評価して質の高さで判断することとした。住まいにフォーカスした海外調査の結果を丹念にまとめたものや人口減少時代のまちづくりに示唆を与えるものなど、テーマ的には出版することで多くの人目に触れてほしいと思える内容のものが複数あった。そのなかで、近代カンボジアを代表する建築家ヴァン・モリヴァンの足跡をたどった岩元さんの原稿は、グローバルヒストリーとして非西洋言語で日本の西山卯三記念叢書としてまず出版される意義が認められた。また、岩元さんが自身一建築家としての視点を持ちながら、建築家ヴァン・モリヴァンに歴史的解釈を与えている点が高く評価された。第1回にふさわしい充実した内容のものとして、積極的に採択できたと考えている。

（岡部 明子／選考委員長）